

決 裁	議 長	局 長 等	次 長	リ-ダ-	担 当	合 議	
							

令和 6年 8月 1日

養父市議会議長 様

養父市議会議員 田村和也

政務活動概要報告書

政務活動の概要を下記のとおり報告します。

記

- 1 活動月日 2024年7月29日(月)から2024年7月30日(火)
- 2 活動場所 能登半島地震被災地(石川県珠洲市内各町)
- 3 活動目的 「能登半島地震復興支援について」
- 4 活動内容 被災地の現状及び課題について学び、今後の教訓として生かすべき事項について調査するための視察研修
- 5 活動成果

令和6年3月20日に能登半島地震緊急報告会(神戸市)に参加して地震被災地で活動するボランティアや研究者等から、被災地の現状や課題について学んできたが、発災から7か月経過した現地の状況等を知り、今後の教訓として生かすべき事項について調査するため視察研修をした。

視察研修のきっかけは「能登半島地震で大きな被害が出た石川県珠洲市で、被災者らが、倒壊した家屋が残る街中を案内し、被災体験などを語る『復興支援ツアー』を始める。今後の教訓としてもらうほか、被災地に人を呼び込み、復興の足がかりにしようと企画した。」と新聞記事で知ったことであった。

このツアーは、津波で浸水した地域や仮設住宅、復旧作業現場などを車や徒歩で2時間かけて回る。「いまも避難所で生活する人がいるため開催には葛藤もあつ



たが、現状を知ってもらうことには大きな意味がある」とツアーを主催する団体の代表篠原和彦氏は「リブート珠洲」を設立したそうだ。その篠原氏に被災地の実際の被災状況、復興に向けた地域の努力や課題について説明を受けた。このツアーの大きな意味とは、外部からの関心と支援を受けることで、地域の人々は励まされ、自分たちの努力が無駄にならないと感ずることができ、これにより地域全体の希望が高まり、復興への意欲が強まる。またこのツアーで経済効果と地域活性化の足がかりになれば、そして、珠洲のファンを形成しリピーターになる流れを着実に育むことで、珠洲の未来への希望と可能性につながるのではと感じた。

#### ・宝立町見附公園と周辺（見附島）

能登のシンボルともいえる見附島がある公園でしたが震災と津波による被害が甚大で、復興に向けた取り組みは見当たらなかった。「珠洲に来たらここは絶対！王道の絶景スポット」と言われているが、観光客の姿は見当たらなかった。また現地の関係者等の活動もなかった。市民の憩いとなる公園の早期復旧に取り組む必要があると感じた。また、公園内の情報（復興計画・行政の取組・対応等）の公開があれば今後の観光客集客に繋がると思った。

#### ・移動式ランドリーによる被災地支援があった学校周辺（避難所となっている学校と自衛隊の災害支援の現状及び仮設住宅の様子）

未だに避難所が運営されている。仮設住宅に入居できない被災者に対する行政の情報不足を感じた。自衛隊による入浴施設の撤去も近いとのこと。被災者同士の不平不満があり、住民によるコミュニティ不足があるのではと感じた。また仮設住宅の代表とか、まとめ役の存在が必要である（行政との繋がりや情報の共有化）。移動式ランドリーは生活の一部となっており、撤去時には「なぜ今」という利用者の声があったそうだ。

#### ・蛸島町針ヶ崎周辺（ガレキゴミ集積場とボランティアキャンプ場）

災害廃棄物 受入れ場所は現在多くの、瓦・コンクリート・木くず（角材・柱材・板材）など重機による区画ごとの分別がされていたが、住家被害数 珠洲市：全壊 4,954 棟、半壊 3,432 棟、一部破損 5,404 棟 合計 13,790 棟が発生している。今だに多くの家屋が被災当時のままであり今後の対応に課題があるのではと感じた。次にボランティアの宿泊先確保のためキャンプ場にテント設置、能登半島地震で活動するボランティアの宿泊先の確保が課題になる中、珠洲市ではキャンプ場にテントを設置して、ボランティアの滞在拠点としている。

#### ・飯田町港周辺

地震による強い揺れや津波により、防波堤や岸壁が破損するなどの甚大な被害を受けたままになっていた。飯田港には、高さ 4.3 メートルの津波が押し寄せたそう。津波や地震の影響で漁船が転覆するなどし、漁に出ることができないだけでなく、緊急物資などを積んだ船を迎えることができない状況が、今だに復興の様子もない現状であった。港周辺にある駐車場には災害復旧用の軽自動車貸し出し車両が数台あり無料で貸し出ししているそう。また全国からキャンピングカーが災害復旧宿泊施設として数十台集まっていた。

・宝立町鵜飼川河口付近

(災害当時の自衛隊による安否確認等を行った家屋と寺院の当時のままの被災現場及び被災者によるボランティア活動対話)

珠洲市内の津波被災地で最も南側に位置する宝立町鵜飼集落付近。一部報道では、市内で最も津波の被害が大きかったといわれるところである。鵜飼川右岸沿いを海側に歩いていくと河口から 300m 手前の付近から、津波をかぶった家屋が続いていた。堤防に打ち上げられた漁船が横たわる。鵜飼川の河口付近では津波が低い堤防を越えて浸水し、川沿いの道路に漁船なども乗り上げたところ。現地では未だに「1月6日シズオカ・1月7日居住者・・・安否確認済シズオカ」と被災家屋に自衛隊の捜索内容が記載されていたままの状態であった。また、寺院も同様に甚大な被害を受けており、震災時のままであった。再建の見通しは分からないと言う。視察研修最後に「リブート珠洲」のボランティア活動拠点として、災害にあった店舗「1階」を無償で提供を受け仮設住宅の住民たちの憩いの場として住民に親しまれている店舗を視察した。

【課題と今後の教訓】

- ◎石川県内では約 6800 戸の仮設住宅が必要とされていて、7月30日の時点で8割ほどにあたる 5498 戸が完成、残りの一部は11月までかかる見通し。(仮設住宅の早期対応―抽選ではなく地域ごとでの入居が必要―被災住民のコミュニケーションによる情報不足の解消及び見守り活動による孤独死の解消に繋がると感じた。)
- ◎被災者の連携づくりとして被災者が集まれる場の提供―災害関連死の解消のためにもいいのではと考える。―7月30日時点災害関連死は、市や町から正式な認定が出れば能登半島地震の死者は339人となる見通しで、このうち災害関連死の人数は110人となる(報道資料)。
- ◎能登半島地震のあとの復興計画早期策定―避難している人たちへのアンケートや住民からの提言なども踏まえての策定づくり。